



東中国教区
 教区ニュース誌委員会
 〒7100008
 倉敷市鶴形一五十五
 倉敷キリスト会館内
 TEL(086)421-1780

説教

主に新しい歌を歌え

倉敷教会 林 明奎

「ハレルヤ。主に新しい歌を歌え。」

忠実な人々の集いで賛美の歌を。」

(詩編一四九編一節)



コロナ禍の長期化により教会の礼拝と集
 会も影響を受けて困難な状況になってい
 るでしょう。倉

敷教会の場合は、
 コロナ禍におけ
 る礼拝順序対応
 として、一部順
 序を省略しなが

ら全体礼拝時間を短縮することにしました。
 会衆は通常、頌栄を含めて五回賛美しま
 が、これを三回に減らし、さらに声には出
 さず黙想の形をとりました。これは、奏楽

を聞きながら心の中で歌詞を充分に味わう
 ためでもあります。礼拝の中で声を出して
 歌いたいのは、信仰者としてごく普通の気
 持ちだと思いますが、コロナ禍のために自
 制をすることも信仰者としての在り方では
 ないでしょうか。もし声を出して賛美を歌
 おうとしても、マスクを着用したままでは、
 そうとう大変なことだと思われれます。

私は日本生まれではないため向こうの賛
 美に馴染んでいて、日本基督教団の『讚美
 歌21』に親しむまでにはある程度の時間が
 必要でした。収録曲の多くは向こうで歌っ
 たことのないものであり、知っている曲で
 あっても歌詞は日本語なので違和感を持つ
 こともありました。人にはそれぞれの母語
 があり、その母語の歌詞で歌うことと母語
 ではない歌詞で歌うことの気持ちは異なる
 でしょう。しかし時間が経つにつれ、私も
 『讚美歌21』に慣れて、今は気に入った曲
 もたくさん増えました。

詩編一四九編は命令形賛歌で、「ハレル
 ヤ歌集」第四歌です。ヤハウエによって建

目次

説教「主に新しい歌を歌え」	1
将来的東中国教区宣教に向けて	2
新型コロナウイルス対策の苦慮(教会の試み)	3
「新任教師挨拶」	4
「退任の挨拶」	5
社会委員会主催・人権問題講演会	6
教会紹介 岡山聖心教会	7
「こんにちはのお部屋」編集後記	8

てられた真のイスラエル(主の慈しみに生
 きる人の集い)が、ヤハウエを賛美するピ
 ジョンが述べられます。「ハレルヤ」とは、
 「神をほめたたえよ」の意味のヘブライ語
 の言葉ですが、イスラエルでは神礼拝の場
 での賛美の頌栄句として使用されました。
 多くの詩編の始まりあるいは終わり、また
 はその双方に「ハレルヤ」が付け加えられ
 ています。ヘブライ語聖書で『詩編』の表
 題とされたのは「賛美」を意味する「テヒ
 リーム」で、「ハレルヤ」と同根語(ハー
 ラル)です。

ハレルヤの次に「主に新しい歌を歌え」
 と述べられますが、ここで「新しい歌」と
 は何でしょうか。それは、ヤハウエの新し
 い御業のビジョンを歌う歌を意味すると思
 います。ヨハネの黙示録五章九節に「そし
 て、彼らは新しい歌を歌った」と記されて
 いますが、いつの日か神の国で私たちは思
 う存分「新しい歌を歌う」喜びを味わうで
 しょう。

『将来的東中国教区 宣教に向けて』

教区副議長 服部 修

昨年度および今年度の教区総会において議論すべき議題の一つとして「将来的東中国教区宣教に関する件」が挙げられていましたが、コロナ禍によって総会が書面決議となったため、議論がなされないまま保留の状態となっています。

これまでも東中国教区では教区の将来について様々な形で検討が重ねられてきた歴史があります。そして教区には短期的な課題、中期的な課題、長期的な課題がありますし、その時その時に必要な課題があり、それに向き合ってきました。

しかしながら教区としての歩みや方向性を考えたとき、現実に直結する短期的な課題に集中することが多く、中期的な課題や長期的な課題は話題にはなっても議論が深まらない、あるいは

深まっても実現に向けての一步が踏み出せないことが実際にはありました。

そのような中、日本の人口比を先取りするように、教会は高齢化の問題をはじめ様々な課題が加わってきました。教区は教区内の教会を支え、教区に属する教会が安心して伝道の業に励むことができるようにサポートする必要があります。とは言え、新たな課題が生じる中で、これまでのあり方を踏襲しているだけでは対応しきれない課題が生じることは容易に想像できます。そして教区内の諸教会の力がそがれることは、その教会がたてられている地域にとっても決して小さなダメージではないと言えます。そこに教会がある、という事実の持つ力を大事にしたい。だからこそ、その地域にたてられている教会を教区はサポートし、またサポートすることによって教会自身が力強くその地に立ち続ける希望を保つための仕組みを検討する必要性があります。

そのために、今の仕組みのままで十

分なのか。どこまでなら対応できるか。対応しきれない課題が生じたときにどのように対応することができるのか。現実を直視しながら動き始めなければならぬと考えています。教区会計のあり方のみならず教区組織の検討も不可欠となります。実際、教区においては兼務・代務教会の割合が大きく、各委員会の人員を満たすために苦慮することもしばしばあります。そして一人がいくつも掛け持ちするような状況は、教師の疲弊を招きやすいですから、できる限り避ける必要もあります。その意味からも現在のあり方で良いのかどうかも含めて根本から見直しをするところが、将来的に教区の宣教を担い分かち合うために不可欠であると思われるのです。

課題をともに認識し、把握し、教区に属する教会がこれからも主にたてられた教会として歩み続けることができようになるためにともに考え、知恵を出し合っていけたらと願っています。

「新型コロナウイルス対策の苦慮」 教会の試み

教区二ニュース誌委員会

渡辺真一

新型コロナウイルス感染拡大の要因が、人が集まることにあります。教会の基本的な形態も人が集まることですから、この新型コロナウイルスの影響は少なからず教会へも及んでいきました。各教会では感染対策に苦慮されてきたことを憶えます。人が集まらずしてどのように礼拝・集会・会議を実施していくか。その一つの選択肢にインターネット配信技術の利用がありました。動画配信、オンライン中継、リモート会議といった言葉が頻繁に使われるようになった通りです。皮肉にも、この新型コロナウイルスの影響によって教会は半ば強制的にインターネット技術の活用を促されてきたと言えるのではないのでしょうか。そして、実際にこれらの技術が教会の営みの中で試行されてきて、感染対策以外の部分でも様々な利点と課題があることに気づかされたことだと思えます。私自身が感じたことと、いくらかの教会からの経験・実感の声をまとめてみます。

△利点▽

・教会外への福音の発信

視聴制限をかけていない場合はだれでも礼

拝に参加することができます。多くの礼拝視聴者は教会関係者でしょうが、教会の礼拝に初めて接する方もいます。近所にある教会、気になつていた教会、気が向いたので動画を見てみたなど、少しの興味から礼拝動画を見る機会が生まれます。福音宣教のアプローチの一つとなり得ます。

・自宅・施設・遠方で過ごす方の礼拝

礼拝に参加できないということが信仰生活の面で痛みや悲しみとなつていふことを改めて憶えさせられます。身体的・物理的に礼拝出席が叶わない方々から、動画配信を通して礼拝に加わることができた喜びの声を多く聞いています。

・移動時間および交通費の節減

特に会議などにおいて、遠距離であればあるほど、また会議の回数が重ねられるほど、その節減の効果が大きなものとなります。また、物理的な制約があるゆえに参加できなかった方も加わることが可能になります。

△課題▽

・安全性 プライバシー

技術サービスの内容によりますが、セキュリティの問題をはじめ、画面に映る人や参加者のプライバシーへの配慮も求められています。

・技術的格差

コンピューターに不慣れたために利用できない場合もあります。きわめて平易な操作で済

むシステム、サポートできる方の存在など、だれでも利用できるための配慮が必要。

・不特定者からの批判

視聴制限をかけていない場合、不特定多数が視聴できる状態になります。ある教会の事例では、キリスト教に否定的な人が説教内容への批判を執拗に行うということも起こりました。攻撃的な批判への応対も時に必要となる場合があります。

(その他にも利点欠点、賛否両論様々な声がありますが、総じて、導入してみても良かったのではないかと声を多く聞きます。みなさまはどのようにお考えでしょうか。)

一つ所に集まって顔を合わせる代わりに勝るものはありません。しかしそれだけが全てではないことも感じさせられます。宣教の働きを補完する様々な方法が私たちの周りにいくつもあります。新しい技術であっても、その利点を生かし、課題を克服し、時代や状況にあわせて良く用いていく知恵を改めて強められたのではないかと思うのです。新型コロナウイルスの災禍の困難を私たちは知りましたが、それでもなお教会の歩みがより前進していくあり方を、私たちは希望をもって模索していきたいと願います。

「新任教師挨拶」

倉敷教会 大槻 聖神愛



この度、倉敷教会に担任教師として赴任いたしました。今年の三

月に同志社大学大学院神学研究科を修了しましたが、その後不思議な御手によって岡山の地へと導かれていると感じています。なぜなら、かつて大学二回生の夏、岡山県中部地区の夏期伝道実習に参加し、倉敷教会にて人生初の奨励をさせていただいたご縁があり、その年のクリスマスに洗礼を受け、今に至るからです。

私は曾祖父から続く牧師の伝統の中で育ち、迷いを感じ、時には抵抗しながら、いつの間にかこの道を歩んできました。思えば、その全てが私にとって必要な経験として備えられ、与えら

れたものであったと実感しています。様々なことに心が振り回され、休まる場所がないこの時だからこそ、教会に連なることで、一人ひとりに与えられた環境の中で少しでも皆様の「魂の帰る場所」としてお役に立てる様、微力ながら努めて参ります。

玉島教会 高津 俊



高津俊牧師と三浦きょうこ牧師

この度、玉島教会に担任教師として赴任しました、高津 俊です。前任地は東海教区山梨分区の南甲府教会でした。玉島教会では主任である妻の三浦きょうこ牧師に仕える立場として、ま

た、東京で一人暮らしをしていた父を呼び寄せて一緒に暮らすことになりました。

岡山は初めての地ですが、教会内外の人々の穏やかさと優しい気候、そして上質な海産物や野菜に心の安らぎを与えられています。

前任地で美味しいと感じていた珈琲豆を持ち込んで玉島で淹れてもそれほど美味しく感じないことに気が付きました。水も空気も気候も異なるのですから当然なのでしょう。同様に既得の知識や能力が新しい地で有効ではないことを思わされています。新しい布地ではありませんが、この地に仕えるために自分を整え直す機会と捉えています。どうぞよろしく願います。

玉島教会 三浦きょうこ

みなさん、はじめまして。玉島教会に四月より着任いたしました三浦きょうこです。生まれも育ちも横浜の、生

粹のハマっ子です。前任地の北海道としてカナダ留学と、十年ほど汗をかき環境に住んでいなかったせいか、西に住むのはとても不安でしたが神様はちゃんと備えて下さり、一年半ほど甲府に住み夏の猛暑でウォーミングアップ後、この度は玉島に導かれました。

関東の笑いといの笑いの違いに漠然と不安を抱きながらの赴任でしたが、温かくユーモア溢れる玉島の方々に支えられ、着任後3ヶ月を経た今はもうすっかり玉島に腰を下ろし、希望を抱いて信徒と共に「神の家族」を歩み始めています。

同教区の諸先輩方、信徒の方々とお会いする機会は、残念ながらコロナの影響下でまだ多くは与えられておりませんが、過ぐる就任式では、諸教会より温かい励ましの言葉を頂き心から感謝でした。神様のお与えくださった恵みのうちに、主の交わりをよろしくお願い致します。

「退任のご挨拶」

田中馨子

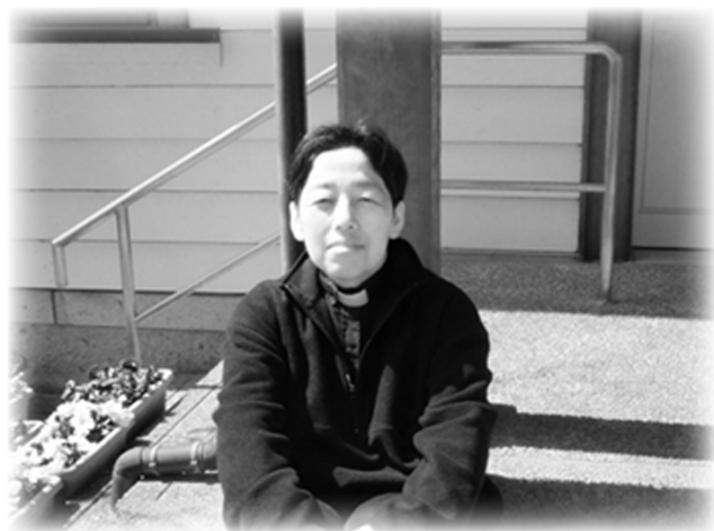
二〇二一年三月末をもって、一二年間お仕えしてきました津山教会での働きを終え、四月から兵庫教区の神戸多聞教会に着任致しました。

最後の一年間は、感染症の対策や対応の中で、思うような活動も出来ず、また最後に皆さんにお会いしてご挨拶をさせていただくことが十分にできなままお別れの時を迎えました。

東中国教区での一二年間のあたたかいお交わりを心から感謝申し上げます。与えられた出会いの中で、神様が示される豊かな業を共に見させていただき、また励ましを与えられることがたくさんありました。

東中国教区でのお交わりの中でいただいた「宝」を大切に、新しい地で、主のご用に励んでいきたいと願います。

感謝と共に



「津山教会玄関にて」



社会委員会主催・ 人権問題講演会

報告者 土井しのぶ

開催日：二〇二一年七月三日（土）

テーマ：「今、顕在化している自死、子どもへの虐待、家庭でのDVについて」

講師：杉山 春さん

（教団・経堂緑岡教会員）
ルポライター

『ここらの友』七月号一面に紹介記事。



講師の杉山 春さん

著書

『ネグレクト 真奈ちゃんはなぜ死んだか』（小学館文庫）、「ルポ虐待大阪二児置き去り死事件」（ちくま新書）、『児童虐待から考える』（朝日新書）

他

…現在、二〇一八年発覚の目黒区の事件、二〇一九年野田市の事件、また、札幌市で起きた児童虐待の取材執筆中。

講演会の形式：Zoom会議

参加者：北海道、広島、東京など各地からの四十三名（東中国教区、教団の教会、他教派キリスト教会、児童相談所、児童養護施設の所属から他）

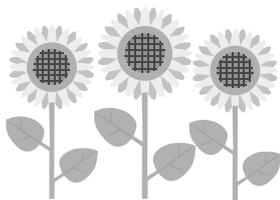
テレビ画面に「もう おねがい ゆるしてください・・・」と反省文を残して逝った五歳の女児のいたいけな顔の映像が今も残っています。たまらない思いを抱いた事件でした。

今回の講師・杉山 春さんは、著書として提示の各事件をルポされ、裁判記録、親たちへの取材を通して虐待に至った加害者が追い詰められ孤立していった背景も話されました。この時代を共に生きているものとして私たちは重く考えさせられています。

質疑応答に入って、「孤立」という課題への対策として、人との「関り」が大切である、そして受け止め合える「居場所」の確保の大切さに改めて気づかされました。

「助けて」と言える「関り」作りを意識的に為していくことで、「孤立」への流れをみんなで未然に防ぐことができるのではないかと。そのようにして、私たちは、この社会を変えていけるといふ希望を見出すことができました。

講演会を終えて、参加された方々から早々と感想と感謝のメールが届いています。それらは後日、社会委員会の活動報告集『声』に載せる予定です。どうぞご期待ください。



教会紹介

●岡山聖心教会●

「使徒言行録の教会を目指して」

永倉信嗣

【教会創立】中国で南京教会を設立し伝道を行っていた初代主任牧師 永倉義雄は、敗戦により帰国。翌年、要請を受けて岡山での伝道を開始し、一九四七年五月四日に岡山聖心教会を設立した。

【群れの成長】牧師家族六名が四畳半の離れを間借りして生活し、教会員が経営する会社の会議室を借りて礼拝を守るところから始まったが、群れは少しずつ増え、半年後、岡山市北区広瀬町の四軒長屋の一軒を借り、会堂兼牧師館とした。さらに様々な試練を受けながらも伝道に燃える日々を過ごし、一九五一年、現在の岡山市北区番町に建っていた日本家屋を、会堂兼牧師館としてお借りするまで群れは大きく成長させて頂いた。一九六四年、その土地と建物を購入することが許され、さらに伝道の業が進められていった。信徒数が増加し、会堂が手狭になっては隣家を購入させて頂き、ついには三つの建物で五つの部屋に分かれてスピーカー、モニターを用いて礼拝を守るようになり、一堂に会して礼拝を守



南西側全景

りたいという強い願いを持つようになった。

【納骨堂建築】礼拝堂建築を願いながらも、先に納骨堂を建てるようにとの神様のお導きを受け、一九九七年五月、創立五十周年記念事業として納骨堂を建築した。

【会堂建築】二〇〇九年十月、会堂建築五カ年計画を与えられ、予定より一年早く着工。

一年四ヶ月の工事を経て、毎聖日二百五十名が一堂に会して礼拝できる会堂が完成した。年に数回捧げられる特別礼拝では、二階ホールの可動間仕切りを全開することで六百名が一堂に会することができる。祭壇では、旧礼拝堂の敷地内にあった石を積み上げたゴルゴタの丘に、香杉の十字架が凜と立ち旧礼拝堂の手水を用いた洗礼盤からは、御言葉による命の水が湧き出ている。その周りに

は七十二個のロウソクの火が灯っており、主イエス様によって遣わされた七二名の弟子たちの如く、礼拝に集う一人一人に聖霊が臨み、愛の火が灯されているという信仰を表している。新会堂の門の上には、「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう」(マタイ十一章一八節)の英訳が記されている。新会堂の引き渡し日が十一月二十八日であったことに、神様の聖業の深さを思う。

【展望】群れの一人一人が、神様を愛し、自己を愛し、隣人を愛す者として神様に用いて頂ける器となれるよう願っている。そのためにも、教会が、聖書の御言葉によって導かれ、また、賛美と祈りによって養われ、使徒言行録の初代教会のように聖霊の働き給う所となるよう、群れ全体で祈りつつ励んで行きたい。



礼拝の様子

「ごんにちは」のお部屋

「鳥取再発見

謎の出来事に迫る」

倉吉教会 柴田 彰

倉吉市は目立たない観光都市ですが、大阪から来た人が訪れて必ずびっくり仰天するのが倉吉淀屋の物語です。教科書に書かれていない出来事なので、地元の中学生もほとんど知りません。

倉吉淀屋のルーツは、江戸時代に栄えた「淀屋」です。「淀屋」は木材商から木綿取引、土木工事、米市場へとビジネスを展開し巨大な富を築きます。来客のため架けた橋が淀屋橋です。最も栄えた頃には二時間で八十万両

の商いをしたと言われています。金融業も営んでおり、西国の大名の多くは淀屋に借金をしていました。徳川幕府もその例外ではありませんでした。

四代目当主は、幕府が経済的な力を恐れてやがて淀屋を取り潰すことを予測し、番頭の牧田に故郷での起業をさせます。それが倉吉淀屋のスタートです。しかし、幕府の目をごまかすために当初は淀屋の看板は掲げずに事業展開をしていきます。

一七〇五年に予想どおり淀屋は幕府によって取り潰され財産は没収されます。その額は現在の貨幣に換算すると百兆円以上といわれています。二〇二〇年度の日本の税収は六十四兆円弱ですから、権力者が手にした富の大きさが窺い知れます。

その後、倉吉淀屋の支援を受けて大阪淀屋が再興されます。以後繁栄を続けた両家でしたが、一八五九年に両家は突如閉鎖し、全ての財産を朝廷に献上します。徳川幕府が減び

る八年前のことです。当時の討幕運動の軍資金になったのでしょうか。残念なことに関連する資料は、当主の命によりすべて処分されています。事実があり、現代にも影響がある事柄ですが、歴史書には記されていません。あれ、似ています。当時の歴史書には記載されていないけれども、確実にあった出来事であり、やがて資料に残され、その事実が再構築されていく出来事、イエスの出来事に似ています。

編集後記

詩編一二二篇「目を上げて、わたしは山々を仰ぐ。わたしの助けはどこから来るのか。わたしの助けは来る、天地を造られた主のもとから。」西日本豪雨から早や三年が経ちました。かの災害を改めて憶えると共に、全国各所での災害が起らないようにと願っております。残念ながら、今年も豪雨による災害が各地で発生し、心を痛める限りです。すべての命の上に神の助けが備えられることを心から願います。聖書は人の苦難の歴史の中から、苦難を負う者のために「言葉」を語っています。今私たちは災害災禍の苦難の中にあつて、聖書の「言葉」に希望を与えられて歩みたいと思います。(W)

ポジティブ・シンキング



★ハラスメント相談窓口★

毎月第三水曜日 午前九時～午後九時
イイミミト ハナソウ
電話番号 ○九〇―一三三三〇―八七三〇